



現場から（最近のニュースから）

自分の世界で見ている



認知科学者の今井むつみさんが、私たち人間の「ものの見方」について書いている記事の中から、どこまでも客観的に見ることができない人間の性質について知ることができる本を紹介している記事がありました。3冊紹介してありましたが、1冊だけ抜粋します。

『なぜ世界はそう見えるのか 主観と知覚の科学』（デニス・プロフィット、ドレイク・ベアー著、小浜杏訳、白揚社、2023年）です。

たいていの人は、「私は客観的に世界を見ている」と思い込んでいるのですが、この本が教えてくれるのは、「そうではない」という現実だということです。私たちが見ている世界には、「本当の客観性」というものは存在せず、存在するのは至って主観的な、その人なりの世界だということです。それはどういうことなのか。そして、どういうところが主観的なのか。それを明らかにしてくれるのが、この本だということです。

まず「坂の傾斜」をどのように知覚するのかという実験を紹介してありました。ダンベルの入ったバックパックを背負った被験者と、バックパックを背負わない被験者それぞれが、同じ坂の傾斜を見積もるという実験を通して、バックパックを背負った被験者は、背負わない被験者よりも、つねに坂の傾斜をきつく見積もるといことが分かったそうです。また、同一人物でも、重い荷物を背負っているときと背負っていないときでは、背負ったときのほうが同じ坂を急だと感じていたということです。また、客観的な職業の代表ともいえる裁判官であっても、客観的に世界を見ているとはいえないという事例をあげてありました。イスラエルで行われた研究で、「裁判官がおやつやご飯を食べた後は、仮釈放が認められやすい」ことを示したものがあそうです。「仮釈放」とは刑務所に収容されている受刑者が、更生の様子が見られるなどの条件がそろった際に刑期の満了前に社会復帰を許可される制度だということです。許可されたケースが「いつ判断されたか」を研究チームが調べたところ、食後で血糖値が高い時間帯や疲れていないタイミングに検討されれば仮釈放される可能性がアップするというものでした。つまり、本来客観的に判断されるべき仮釈放を求める申請に対して、客観的な判断のトレーニングを積んでいるはずの裁判官であっても、本当に客観的には判断できていない、ということです。

「自分は客観的に物事を見ている」と思っている人は多いでしょう。そして「自分が見ている世界と、人が見ている世界は同じだ」ということを疑わない人は、きっと多いはずで。しかしそれは、あなたの「主観」でしかありませんと、記事にありました。（4月1日日経BookPLUS<今井むつみ 「人は見たように世界を見ている」ことを知る3冊>より）

人間は、自分が見たり聞いたり、体験していることは現実であり事実だと思います。しかし、それは、すべての人にとっての現実、事実ではないということです。すべての人が自分の主観で判断するしかないのが、紛争や葛藤が生じると言えるでしょう。お互いの主観で判断するしかないとしても、少しでも理解しあうことはできるのでしょうか。実は、そのように判断するしかない背景があります。すべての人間に共通する根本的な背景、それを知るとき、紛争や葛藤する必要がないことが分かります。すべての人間に共通する根本的な背景、それについて、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になるし、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」